

発展練習問題 4-4

<解答>

賃 金	
〔 諸 口 〕 (2,063,000)	〔 未 払 賃 金 〕 (726,800)
〔 未 払 賃 金 〕 (731,100)	〔 仕 掛 品 〕 (1,989,200)
〔 — 〕 (—)	〔 製 造 間 接 費 〕 (56,000)
〔 — 〕 (—)	〔 賃 率 差 異 〕 (22,100)

仕 掛 品	
〔 賃 金 〕 (1,989,200)	〔 — 〕 (—)

製 造 間 接 費	
〔 賃 金 〕 (56,000)	〔 — 〕 (—)

賃 率 差 異	
〔 賃 金 〕 (22,100)	〔 — 〕 (—)

【解説】

基本練習問題 4-3 の内容が勘定記入の形で問われ、かつ条件設定や資料の与え方を複雑にすることで難易度を高めた問題である。また、記入が必要な箇所以上に解答欄が設けられていて不要な箇所に一線を記入させて解答させる形式であることも難易度を高めている要因の一つである。

最終的に求められていることは当月の賃金の予定消費額と実際発生額を比較することであるから、資料を整理しながら両者を求めていく。

なお、資料では賃金の支払手段が明記されていないが、本問では仕訳ではなく勘定記入が求められていて、資料 3 より預り金（源泉所得税と社会保険料）が発生していることから明らかなため、賃金勘定記入借方 2,063,000 円の相手勘定科目は「諸口」となることに注意する。

検定試験において難易度が高い問題では、資料の与え方が不親切な場合が多くなるが、不親切な資料の与え方であっても、資料から読み取れる範囲で適切な解答を考えることが重要になる。

①賃金の予定消費額

本問では職種別に予定消費賃率が設定されているため、資料 2 と 5 から切削作業担当工員と組立作業担当工員の賃金予定消費額を別々に計算する必要がある。

(ア) 切削作業担当工員

予定消費賃率：858,600÷795=1,080 円/時

当月実際直接作業時間は 810 時間だから賃金予定消費額は

$$1,080 \times 810 = 874,800 \text{ 円}$$

(イ) 組立作業担当工員

予定消費賃率：1,164,800÷1,040=1,120 円/時

当月実際直接作業時間は 995 時間だから賃金予定消費額は

$$1,120 \times 995 = 1,114,400 \text{ 円}$$

ここで、組立作業担当工員は間接作業 45 時間、手待時間 5 時間分が間接労務費として計上されるため $1,120 \times 50 = 56,000$ 円を賃金予定消費額に加算する。

以上の (ア) と (イ) より賃金予定消費額は

$874,800 + 1,114,400 + 56,000 = 2,045,200$ 円となり、仕訳を記入すれば次の通りである。

(借) 仕掛品	1,989,200	(貸) 賃金	2,045,200
製造間接費	56,000		

②賃金の実際発生額

資料 3 の賃金支払帳の最下段の記述 (12 名の従業員に支払った合計額) より、6 月 20 日の賃金支給額 (基本賃金以外もすべて含める) は

$$1,598,000 + 96,000 + 126,000 + 142,000 + 101,000 = 2,063,000 \text{ 円} \text{ となる。}$$

資料 3 と 4 より、当月の原価計算上の賃金支払額を決定する仕訳は次の通りである。

(借) 未払賃金	726,800	(貸) 賃金	726,800
賃金	2,063,000	預り金	243,000
		当座預金	1,820,000 ※
賃金	731,100	未払賃金	731,100

※問題文では支払手段が特に明記されていないが、ここでは便宜上、当座預金と仮定しておく。

これより、当月の原価計算上の賃金支払額は

$$2,063,000 + 731,100 - 726,800 = 2,067,300 \text{ 円} \text{ である。}$$

①と②より予定消費額 2,045,200 < 実際発生額 2,067,300 より 22,100 円の借方差異だから、賃率差異は次のように仕訳される。

(借) 賃率差異	22,100	(貸) 賃金	22,100
----------	--------	--------	--------

以上の仕訳をすべて転記すると解答のように各勘定の記入が完成する。